

一次の文章は、五木寛之氏が仏教についてのインタビューに答えた談話である。よく読んで後の問いに答えよ。

前に、ある人と対談した際、「五木さん、ソッチヨクにうかがいますが、宗教とか仏教が真剣に求められた時代というのは、人びとが非常に不幸で、世の中が乱れた時代が多かったのではないのでしょうか」と聞かれたことがあります。つまり、平安で穏やかにみんなが幸せに暮らしているときは、あまり宗教や仏教のことは考えない。宗教が盛んになるということは、それだけ世の中に貧困と不幸が多いということになるんじゃないでしょうかと言われて、僕は即答できなかった。ですが、それは事実なんですね。

ウィリアム・ジェームズという有名な哲学者が、宗教はシックマインドが強く求めるといことを書いています。つまり、危機に直面して、普段考えなかったことを真剣に考える。その中で宗教を求めると。でも、それはちよつと宗教に対する実利的な求め方のようで、僕はインスタントな感じがするんですね。

日本人の信仰心が3・11後に深まったとか、宗教ブームだ、仏教ブームだとかいわれますが、私にはそうは思えないんです。確かに書店の店頭には、仏教やキリスト教の特集を組んだ雑誌や書籍が並んでAように見えますが、私には日本人がいま、真剣に仏教や宗教に深い関心を抱いているのかと考えると、むしろ違うんじゃないかという気がするんですね。

3・11が日本人の心に、ある意味での宗教的な目覚めというか、宗教に関心を寄せるきっかけにはなっているだろうと思います。ですが、非常にインスタントに、何か緊急の手当てをするかのごとくに仏教を求めるのは、本来の姿とは違うのではないか。生と死の問題というのは、平和なときであろうと危機的なときであろうと関係なく人に訪れてくるものです。そういう危機管理の一環としての宗教や仏教というものは、僕から見ると不自然だし、人びとが心から宗教を求めている感じがどうもしない。日本人の信仰心が3・11以降、深まったのかと考えると、そんな感じを受けないんです。

今の時代と重なる時代を探してみると、12世紀か13世紀の平安末期から鎌倉前期あたりになります。政権交代の時期であり、乱世であり、末世末法の意識というか、世の中はもう終わりだという意識が強かった時代です。多くの人びとが悩んでいたことを考えると、その時代が今ととても似ているんですね。そしてその時代には、法然、親鸞、日蓮、道元、栄西、さらに一遍とか、もう続々と宗教的指導者、思想的指導者がハイシユツして、人びとの心をわしづかみにしたわけです。

ところが、今は一人も出てこない。何で法然みたいな人が、この乱世に出てきて人びとに語りかけないのだろう。それを、いろいろ考えてみたのですが、結論としては、Bと思います。たとえば、フランスの国難に際して、英雄的な指導者がほしいという国民の熱烈な願望があり、ジャンヌ・ダルクを担ぎ上げた。だから、仮にジャンヌ・ダルクがいなくても、だれか代わりのジャンヌ・ダルクが現れただろうと言われています。第2次世界大戦時のイギリスにチャーチルが現れたのも、人びとの熱烈な願いなんです。今、日本は乱世、末世ではあるけれど、精神的な支柱を求める人びとの心は冷めていると思います。

しかし、シックマインドが宗教を強く求めるとい言葉には、一面の真理があるのも事実です。

今、うつ病の患者さんが激増しているといわれます。私が先日、精神科医の学会に呼ばれてコウエンしたとき、パンフレットに、「いまや、かつてなかったほどの日本人が精神的危機に立たされている」と書いてありました。かつては日のあたらないところにあった精神科や心療内科が、いまや医療の中心にせり上がってきたといった、Cたる論文でした。

昔、一高の学生が人生を「D」だといって華嚴の滝に飛び込んで自殺した時代には、煩悶は青春の義務であり、特権でした。若い人が悩むことが賛嘆の目で見られるような時代があったわけです。今、それまでもがうつ病だと言われている気がします。病気なのかというと、私はそうは思わないですね。昔の人たち、例えば夏目漱石は、精神的に不安定な中で坐禅をしたし、西田幾多郎は死の直前まで坐禅をきっちりやっていた。今、そういう不安定な人は、心療内科に行っちゃうでしょう（笑）。心療内科が受け持つ部分の多くは、本当は寺とか教会が受け持つべきではないかという気がします。

宗教、あるいは仏教に関心を持つということは、孤独になっていくことですよ。集団的な連帯感や絆を求めるということは、本来の宗教の性格とは違っていると私は思っています。一人になって仏と向き合う、その孤独に耐えるということですから。

ただ、雑誌の宗教特集や、神社仏閣とか、若い人はパワースポットなんて俗な言い方をしますが、そういうところを

入り口として仏教に入っていくのも一つの縁だという気はしています。縁なき衆生を済度するというのが、仏教のマニフェストでもありますし。日本では、聖俗一如という傾向が強くて、昔から、お寺とか神社に詣でるときは必ず精進落として一体になっていた。寺社詣でをして、山をおりとカンラクガイがあり、その両方があって日本の宗教はなりたっていたんです。成田山だって善光寺だってイセジングウだってそうですよ。危機的なときの宗教とは別に、平時の宗教というのは、享楽と一緒にあって楽しみになっていたんですね。それも悪くないと僕は思っているんです。

仏教はカルチャーとしての面もあります。日本に入ってきたときの仏教というのは、もう医学から美術から建築から天文学から、全部が一緒になった、新文明として入ってきているわけです。

日本では、日常の用語だって、因果応報とか、成仏するとか、仏教用語ばかり使っています。日蓮も大ほらを吹くと言っていますが、もとは人を集めて説教することを言うんです。ばあーと吹いて人を集めて説法をすることを、法螺を吹くという。いいことなんです。また、お世辞を言うと言いますが、世辞っていうのは人びとの心を和らげる、そのような言葉を人びとに布施するということなんです。

今様という七五調の流行歌が全盛だった時代に子ども時代を育った親鸞は、その記憶が残っているせいか、和讃を七五調で書くんです。それがずうっと流れ流れて、「あなた変わりはないですか」とか、「ひとり酒場で飲む酒は」とか、歌謡曲も全部七五調でしょう。阿久悠や石本美由起とか、現代のヒット曲の作詞家まで、それが生きている。

御詠歌や和讃のリズムが今も生きてるわけですから、すごいものだと思いますね。もともと仏教は、ブツダのころから音楽や歌とともにあったんです。ブツダの教えをまとめて活字にするのは亡くなってから何百年もあとです。それまでは、稗田阿礼じやないけど、口頭で、しかも、それはポエムのかたちでリズムのある歌のかたちで、人びとに「正信偈」みたいに伝えられていったものです。だから、音楽と歌と仏教というのは、もう、完全に一体化していたわけです。仏教は音楽であり、しかも、歌なんです。

カルチャーとしての仏教では、増上寺の薪能は、チケットが売り切れで全然買えないんですよ。それぐらい人気がある。お能というのにも仏教の一部です。富山の八尾の「おわら風の盆」だって、たいへんな人気があるけど、あれは念仏踊りですよ。

自分たちの使っている言葉や日常を点検してみると、なんだ、八割ぐらいは仏教じゃないかということになってくる。日常生活で、自分たちがどっぷり仏教とつながっていたのかと、振り返ってみるとたいへんな驚きです。

仏教を知ることには日本を知ることにつながります。日本の中にいて見回してただじやわからないことが、仏教という光を差し込むことで、日本人の本質がよくわかってくると思います。

私は最初に、日本人の信仰心が深まった感じがしなかったと言いましたが、仏教の歴史について知り、仏教を通じて考える、そういう形で仏教に接することは、それはそれで結構なことだと思っています。

（『仏教を歩く』）

注1 今様：平安後期に流行した雑芸の一種。もと和讃（注2）から起こり七五調の四句からなるものが多い。

2 和讃：仏・菩薩や高僧の徳を賛嘆する今様体の歌。

3 御詠歌：巡礼または仏教信者などがうたう、和歌・和讃に節をつけたもの。巡礼歌。

4 稗田阿礼：『古事記』の編集に関係した天武天皇の舎人。勅命で帝紀・旧辞を暗唱しながら学んだ。

5 正信偈：親鸞『教行信証』の行巻の末尾にある七言二〇句の偈文（「偈」は、韻文の形で、仏徳を賛嘆し教理を述べたもの）。

6 「おわら風の盆」：富山県婦負郡八尾町を本場とする盆踊歌から起こった民謡。

問一 傍線部 a～j の片仮名は漢字に改め、漢字は読み方を平仮名で記せ。

問二 波線部「3・11」とは、どのような出来事を指すか、十字以内で記せ（句読点を含まない）。

問三 空欄 A D に入れるのに最も適当な語句を、それぞれ次の1～5の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 日本を宗教国家にしようとしている |
| 2 | 活況を呈している |
| 3 | 叩き売りをしている |
| 4 | 売上金を増やそうと躍起になっている |
| 5 | 読者を惑わしている |

- B**
- 1 指導者たるべきすぐれた人材がいらないからだ
 - 2 指導者と人びとが分断されているからだ
 - 3 人びとの求める気持ちが弱いからだ
 - 4 人びとはみんな生きていくことだけに精一杯だからだ
 - 5 指導者たるべき人たちは覇権争いに余念がないからだ

- C**
- 1 意気軒昂^{こう}
 - 2 意気消沈
 - 3 意味不明
 - 4 意気投合
 - 5 意志薄弱
- D**
- 1 平々凡々
 - 2 不義理
 - 3 不愉快
 - 4 不可解
 - 5 不道德

問四 傍線部Ⅰ「仏教ブームだ」とあるが、今いわれている仏教ブームについて、筆者はどのように考えているか。筆者の見解を六十字以内で記せ（句読点を含む）。

問五 傍線部Ⅱ「雑誌の宗教特集や、神社仏閣とかを」入り口として仏教に入っていくのも一つの縁だ」と筆者はいう。筆者は、これから仏教を学ぼうとする人びとには、どのような提言をしているか。筆者の提言を六十字以内で記せ（句読点を含む）。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

近畿の中央部を流れる淀川の上流と下流に、わずか五〇キロをへだてて、京都と大阪という二大都市がある。

これほどの近いキョリに、これほどの大都市が存在する例は世界でも珍しいが、しかしまた、おたがいこれほど性格のちがう都市も稀有である。むかしから「京大阪 僅^{わずか}十三里を隔^{へだて}ぬれ共、風俗大に反せり」（『翁草』）などといわれる。その風俗の違いの一つを、わたしは「京都のタテマエ主義、大阪のホンネ主義」とみる。

たとえば、京都の人のタテマエをたいせつにするところは京言葉にたんにしめされる。京言葉はつねに相手を手をたてて、一般に耳ざわりがいい。しかし、あまり真実はこもっていない。江戸時代に、江戸・京・大阪の三都の人情、風俗を比較した西沢一鳳は「薄情な者を京者じゃ京詞^{きょうことば}をいふ者じゃ」（『皇都午睡』）といいきる。

いっぽう、大阪はこの逆で、ことばのうえでもつねにホンネがでる。ホンネを表にだしていいないと「エエカッコシイ」と馬鹿にされる。大阪での挨拶が、財界人から庶民にいたるまで、いちように「**I**」というのも、そのような事情をしめしている。

このようにみてゆくと、たいてい人は、キョコウで飾りたてられたタテマエ主義の京都よりも、みにくい真実でも堂々とおしだしてゆくホンネ主義の大阪のほうが好ましい、と感じられがちであるが、こと文化にかんしてはそうかたんにはいいきれない。むしろ、ホンネ主義よりもタテマエ主義のほうが、いっばんには愛されるのである。

そのことが、たんにしめされる例に橋がある。

大阪は、もと「八百八橋」といわれ、橋の多いこと、そのデザインの優れたことで有名だった。

（中略）

その橋が、大阪ではいま無惨な形をとっている。たとえば、大阪駅前全面に張りわたされたマンモス歩道橋をみるとよくわかる。

要するにそこにあるのは「町に車をとおしたい」というみえみえの**Ⅱ**である。大阪には、いまもたくさん橋はあるが、かつてのような橋の文化はない、というのが、少々酷のようだが、わたしの生まれコキョウである大阪にたいする実感である。

では京都はどうか、というと、ここではそのめざす方向はともあれ、橋の文化を慈しむという姿勢はたしかにあるのだ。その例を、わたしは嵐山の大堰川^{おおい}にかかる渡月橋にみる。

嵐山——といえば、歴史的文化財の豊富な京都のなかでも、代表的な観光地である。そしてそこにかかる渡月橋は、嵐山の顔である。嵐山を訪れて渡月橋をわたらないという人はまずないだろう。そこで写真をとった人も多いはずだ。その渡月橋が、じつはコンクリートできている、ということを知っている人は何人あるだろうか。

嵐山の渡月橋は、まぎれもなく、テックツテックコンクリート橋である。ただし、橋上の高欄をのぞいて。ただその姿は日本古来の木造桁橋の姿や形を模しているの、遠くからみる人にとっては、それが木以外の材料できているとは、ように判断しにくい。

さらに近くにより、橋をわたってみても、肌ざわりの心地よい素朴な檜^{ひのき}の高欄が木橋のイメージを漂わせている。これはみごとな高欄橋である。そしてそこには、みごとなキョコウがある。

渡月橋は、この橋一つで、日本の橋の歴史のすべてをいいつくしている。

多くの「橋伝説」が伝えるように、渡月橋もまた、そもその由来を奈良時代の僧・行基に負っている。というのは、大堰川の右岸、嵐山の山麓に智福山法輪寺という寺があるが、これは古くは木上山葛井寺と号し、七二三（和銅六）年元明天皇の勅願により行基によって建立された、と伝えられるからだ。

そのとき、橋がかけられた、ということをするす文献はないが、大土木事業家の行基のことだから、参道のための架橋のこともように想像できる。その後、仁明天皇の承和年間（八三四〜八四七）に弘法大師の弟子・道昌が葛井寺を再興して法輪寺とし、そのときに橋がかけられ、法輪寺橋と名づけられたことが記録にみえる。もつともその伝承さえ疑う人もいるが、古く下嵯峨・天竜寺一帯を葛野郡橋頭郷（はしもと）といった事実が、平安時代からここに大橋のあったことをしめしている。それは、いまの渡月橋よりおよそ一町ほど上流にあり、朱塗りの美しい橋だったという。建礼門院の雑仕・横笛が入水したのは、この橋のたもとである。

渡月橋という名が登場するのは、法輪寺橋架橋より四四〇年ほどのちの龜山上皇のときで、「くまなき月の渡るに似たり」というところから、その名を渡月橋と改めたという。

しかし、中世の戦乱と、たびたびの出水のためにこの橋は焼亡とリユウシツをくりかえした。

（中略）

大堰川というのは、嵐山から渡月橋までのあいだの川の名称である。嵐山より上は保津川で、渡月橋より下は桂川となる。一つの川が、近接して三つの名称をもっているのであるが、大堰川というのは、この地を拓いた秦氏が、氾濫を重ねる水にたいして大きな堰をつくって防いだのに由来する、という。渡月橋の北に、堰の神を祀る大井神社がある。しかし堰をつくって氾濫は防いだが、橋はなんどかけても流された。

そこで保津川を開削してこのような暴れ川を制御し、現地点に「永久橋」をかけたのは、京の豪商・角倉了以で、ときに慶長年間のことであった。その形は、橋脚の上に桁・梁をかける桁橋で、ほぼ昭和の初めまでその形はたまたれた。それには、橋の構造そのものよりも、河川の改修によるところが大きかったであろう。

（中略）

この渡月橋が、げんざいの姿にかわったのは、一九三二（昭和七）年六月の出水により橋の半分が流出したため、その翌年に全面的改築がおこなわれた。注目すべきことは、このときに橋の長さを一五八メートルとし、幅員が三倍の一メートルに拡張られ、橋面が一メートル嵩上げされたことである。そして基礎・橋台・橋脚・梁はデッコッテツキンコンクリート造、桁にはI型鋼が使用され、その上はアスファルト舗装、高欄には尾州檜がもちいられた。擬宝珠をかぶった「唐橋」スタイルではなく、数寄屋の味にも似た淡泊な高欄だが、遠くから見るとモダンで、近くによると木肌の暖か味が感ぜられるすぐれたⅢとなつてゐる。

（上田 篤『橋と日本人』）

注1 擬宝珠：欄干の柱頭などにつける宝珠の飾り。形は葱の花に似る。

2 唐橋：中国風の橋。欄干を設けた橋。

問一 傍線部 a～j の片仮名は漢字に改め、漢字は読み方を平仮名で記せ。

問二 空欄 Ⅰ・Ⅲ に入れるのに最も適当な語句を、それぞれ次の1～5の中から、一つずつ選び、番号で答えよ。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------|---|---------|---|-------|---|-------|---|------|
| Ⅰ | 1 | マイドゴメンヤシヤ | 2 | モウカツテツカ | 3 | オイデヤス | 4 | シャアナイ | 5 | オオキニ |
| Ⅲ | 1 | コウランバシ | 2 | マルキバシ | 3 | カズラバシ | 4 | カラハシ | 5 | イワハシ |

問三 空欄 Ⅱ に入れるのに最も適当な語を、次の二つの中から選び、番号で答えよ。

- | | | | |
|---|------|---|-----|
| 1 | タテマエ | 2 | ホンネ |
|---|------|---|-----|

問四 「渡月橋」の歴史について、次の空欄「ア」～「キ」に適当な語句を補入せよ。

（アは日本史という時代名、エは人名、オ・カは年号を記せ。イは「初・中・後」のいずれかを記せ。）

渡月橋が架橋された始まりは「ア」時代「イ」期といわれる。往時の橋は「ウ」に位置していたが、「エ」が「オ」年間に川の開削にあたって、現在の場所に架橋した。しかし出水の際に破損・流出するところが多く、現在の橋は「カ」に橋脚などを「キ」に改めたものである。

一問一 a 率直 b 輩出 c 講演 d しゅじょう e しょうじん f 歓楽街 1点×10＝10点

g 伊勢神宮 h いんがおうほう i じょうぶつ j ふせ

問二 (平成23年) 東日本大震災 (「地震」「津波」「原発事故」は2点)

問三 A 2 B 3 C 1 D 4 4点×4＝16点

問四 I 緊急の手当をするが如く危機管理の一環として 15点

て仏教を求めるのは不自然だ。いま日本人は
仏教に深い関心は抱いていない。

集団的な連帯感や絆を求めることは、本来の
宗教の性格とは違う。いま日本人の信仰心が
深まった感じはしない。

問五 II 仏教は新文明として日本に入ってきた。仏教 15点

の歴史を知り、仏教を通じて考えることで、
日本や日本人の本質がよく理解できる。

平時の宗教は享楽が一緒になっていた。
(仏教はカルチャーとしての面もある。)

二問一 a 距離 b 虚構 c むざん d 故郷 e いく(しむ) 1点×10＝10点

f 鉄骨鉄筋 g こうらん h けたばし i 流失 j かいさく

問二 I 2 III 1 3点×2＝6点

問三 II 2 3点

問四 ア 平安 イ 初 ウ (現在地より) やや上流 エ 角倉了以 3点×7＝21点

オ 慶長 カ 昭和九年 キ 鉄骨鉄筋コンクリート